

見本

No.1

冠動脈疾患の一次予防 10 症例

診療実績表

外来・入院(選択)	家族歴	合併症の有無と治療内容		
病院名: ○○○○病院	父:2型糖尿病、高血圧症、 父方叔母、妹:糖尿病	肥満 標準体重 63.6kg であり、食事療法 1760kcal/日 (27.7kcal/kg/日)、禁酒・間食の中止を指導	有・無 食事療法: 1760kcal/日 (27.7kcal/kg/日)、運動療法: 30分以上の歩行、禁酒の継続	肝疾患(脂肪肝など) 有・無
患者ID:*****	生活社会歴			
患者性別:男・女	調理師	メタボリックシンドローム 食事療法: 1760kcal/日 (27.7kcal/kg/日)、運動療法: 30分以上のウォーキング	有・無 脳梗塞	有・無
年齢: **歳	飲酒: 禁酒中(以前は日本酒 4-5合/日) 喫煙:なし			
診療期間 ****年**月～****年**月	主な身体所見	糖尿病 メトホルミン塩酸塩 500mg 分2朝夕食後、イプラグリフロジンレプロリン 50mg 朝食後	有・無 PAD	有・無
現病歴 定期健診で****年頃より高血糖を指摘されるも放置。****年の健康診断で FPG 254 mg/dL、HbA1c 10.6 %のため近医受診。糖尿病教育・治療目的にて****年**月当院紹介受診となった。	身長 170 cm、体重 79 kg、BMI 27.3 kg/m ² 、ウエスト周囲長 94 cm、 血圧 130/75 mmHg、脈拍 62回/分・整、頭頸部・胸腹部に特記すべき所見なし。アキレス腱肥厚なし。	高血圧症 減塩 6g/日、ロサルタンカリウム 50mg 分1朝食後	有・無 CKD	有・無
既往歴 ****年:肝機能障害	主な検査所見	脂質異常症 食物繊維摂取歎行、プラバスタチンナトリウム錠 5mg 夕食後	有・無 痛風・高尿酸血症	考察(一次予防のために留意した点) 肥満、糖尿病があるため、食事療法、運動療法を基本として HbA1c 7.0 %未満、血压 130/80 mmHg 未満、LDL-C 120 mg/dL 未満、TG 150 mg/dL 未満、HDL-C 40 mg/dL 以上を目標に、管理を続けているが、血压以外まだ目標に達しておらず、また頸動脈壁肥厚も見られており、管理をより厳格に行う必要がある。

No.2

外来・入院(選択)	家族歴	合併症の有無と治療内容		
病院名:		肥満 標準体重 63.6kg であり、食事療法 1760kcal/日 (27.7kcal/kg/日)、禁酒・間食の中止を指導	有・無 食事療法: 1760kcal/日 (27.7kcal/kg/日)、運動療法: 30分以上の歩行、禁酒の継続	肝疾患(脂肪肝など) 有・無
患者ID:	生活社会歴			
患者性別:男・女		メタボリックシンドローム 食事療法: 1760kcal/日 (27.7kcal/kg/日)、運動療法: 30分以上のウォーキング	有・無 脳梗塞	有・無
年齢:				
診療期間 年 月～ 年 月	主な身体所見	糖尿病 メトホルミン塩酸塩 500mg 分2朝夕食後、イプラグリフロジンレプロリン 50mg 朝食後	有・無 PAD	有・無
現病歴		高血圧症 減塩 6g/日、ロサルタンカリウム 50mg 分1朝食後	有・無 CKD	有・無
既往歴	主な検査所見	脂質異常症 食物繊維摂取歎行、プラバスタチンナトリウム錠 5mg 夕食後	有・無 痛風・高尿酸血症	考察(一次予防のために留意した点) 肥満、糖尿病があるため、食事療法、運動療法を基本として HbA1c 7.0 %未満、血压 130/80 mmHg 未満、LDL-C 120 mg/dL 未満、TG 150 mg/dL 未満、HDL-C 40 mg/dL 以上を目標に、管理を続けているが、血压以外まだ目標に達しておらず、また頸動脈壁肥厚も見られており、管理をより厳格に行う必要がある。